

KS19開始に伴う統幕長所感

10月29日から11月8日までの間、平成30年度日米共同統合演習、キーン・ソード19を実施します。

まずは、台風26号により被災された米国領グアム・北マリアナ諸島自治連邦地区の方々にお見舞いを申し上げます。本演習で予定しておりました、同地域における水陸両用作戦等の訓練は、被災地にご迷惑ならないよう実施要領を変更するとともに、必要に応じ、自衛隊として出来得る限りの支援を実施する所存です。

さて、本演習は、武力攻撃事態等における自衛隊の統合運用要領及び米軍との共同対処要領のうち、主として戦術レベルの任務及び各作戦における指揮統制を演練し、即応性及び相互運用性の向上を図ることを目的として実施します。また、米インド太平洋軍との共同演習であり、日米の部隊が、まさにサイド・バイ・サイドで活動することを通じ、日米共同対処能力を向上させることが、日米同盟の更なる実効性向上につながるものと考えます。本演習には自衛隊から人員約47,000名、艦艇約20隻、航空機約170機が参加する予定となっており、本年度自衛隊が参加する実動演習では最大規模のものであります。

本演習においては、武力攻撃事態において生起が予想される、水陸両用作戦、弾道ミサイル防衛・防空作戦、海上作戦、航空作戦などを幅広く演練し、主に現場部隊レベルの課題や問題点を明らかにして、我が国の防衛をより確固たるものにしていく所存です。また、その他の特色として、日米以外に、オーストラリア軍、カナダ軍、フランス軍、韓国軍、イギリス軍からオブザーバー要員を招待するほか、キーン・ソードでは初めて日米以外からカナダ軍の艦艇が、海上作戦に係る訓練に参加する予定となっています。このような活動を通じ、各国

との相互理解と関係強化に努めてまいります。

我が国周辺には様々な課題や不安定要因が存在し、安全保障環境は一層厳しさを増しています。今後も各種訓練・演習等を通じて、日米共同対処の実効性向上及び自衛隊の統合運用能力の維持・向上を図り、もって我が国の防衛に万全を期してまいりたいと考えております。

平成30年10月29日 統合幕僚長 海将 河野 克俊